

定期上映会 戦傷病者の証言～失明者編～

戦地で眼を負傷し、失明者としての労苦を抱えながら人生を送ってきた戦傷病者の証言映像を上映します。

上映場所：しょうけい館 1 階 証言映像シアター

上映期間：2021 年 10 月 13 日（水）～12 月 5 日（日）

上映時間：10：00～17：00

失明の夫を支えて

毎時 0 分
より上映

昭和 16 年に結婚。その 6 日後に召集されフィリピンへ。翌年、戦闘中に砲弾の破片で両眼を負傷。内地還送され大阪陸軍病院、東京第一陸軍病院と移り義眼を装着して帰郷。失明のため思うようにいかず自暴自棄となる。妻は終戦時には二人の子育てと農業の重労働で倒れ、意識不明に陥る。25 年、農業を続けられなくなり夫婦で実家を離れる。傷病恩給が支給されても夫は寝言にうなされ続け、気を紛らわすために勝負事に走った。一時は夫婦とも互いに死を意識。晩年、夫は勝負事を止め家族団らんで過ごすようになったが、58 年に他界。

努力家の夫を信じて～失明の夫とともに～

毎時 18 分
より上映

昭和 14 年 1 月に現役兵として騎兵第 3 連隊に入隊。昭和 16 年 12 月 25 日の香港島の攻略作戦で爆弾で吹き飛ばされた壁の破片により顔面と左肩を負傷。両眼損傷のため日本に後送され手術を受け左眼は回復。しかしその後その左眼も悪くなり手術を繰り返したが回復せず両眼失明となる。その後、鍼灸マッサージの資格と取得し、地元で治療院を開業した。

両眼失明が切りひらいた戦後の人生

毎時 40 分
より上映

海軍に志願し、昭和 19 年 6 月、16 歳の時に呉の大竹海兵団に入団。初年兵教育の後、戦艦伊勢に配属され、その後すぐに昭和 19 年 10 月のレイテ沖海戦出撃に加わる。昭和 20 年 7 月 28 日、呉で待機していた伊勢艦上で連日の敵機の攻撃にあい、両眼と右肩、左胸に爆弾の弾片を受け負傷。その後、左眼の摘出手術を受け、入院先で終戦を迎える。残された右眼も見えなくなったが、同じ病院の患者仲間と中途失明者のための職業教育機関である国立光明寮の設立運動や平和運動や傷痍軍人に対する国の補償を求める運動などに参加した。退院後は鍼灸マッサージの国家資格を取得。帰郷後は視覚障害者や失明傷痍軍人の福祉に力を尽くした。

◆上映時間以外でも、情報検索機にてご覧いただけます。

◆団体プログラムにより変更となる場合もあります。